故郷の地域力を絶賛

東京牧村会 鈴木会長がエール

牧区で川辺山菜まつり

意気込みを託した「頑張ろう」コールに参加する東京牧村会の鈴木会長（中央）

東京牧村会の鈴木勉会長（77）は3日、故郷牧区を訪れ、川辺山菜まつりに参加し、楽しく交流を広めた。

鈴木会長は地元原地区の上牧出身。会場にあった牧中原分校に9年間通ったという。

開会式のあいさつで「離れていても、できる限りの応援をしたい」とエール。活気のあるイベントの雰囲気と運営を支える地域力を大絶賛した。

「参加は2回目ですが、自力の企画力が素晴らしい。人口が減っても決してしぼばないという心意気が伝わり、応援に来たつもりが、逆に元気をいただいた。出店も集落単位でまとまりを感じる」と笑顔で感想を述べていた。

いつでもどこでも地元の話題を
https://digital.j-times.jp/
上越・糸魚川タイムス電子版

首都圏ニュース

改元節目に歴史探訪

会員交流会で企画

東京牧村会

首都圏在住の上越市牧区出身者でつくる東京牧村会（鈴木勉会長）は4月20日、第3回会員交流会を企画し、第2の故郷の歴史を探訪しようと東京都墨田区の江戸東京博物館を観覧した＝写真。

会員交流会は鈴木会長が就任してから、会員同士の親睦をさらに深めたいと計画されている。これまで、下町界わいの探訪会と勲章や五輪メダルもつくる埼玉造幣局を訪ねている。毎回、下見を行うなど入念に準備され、充実した集いになっている。

今回も平成から令和への改元を視野に往時の江戸東京の歴史と文化を振り返り、未来の都市と生活を考える機会にと実現した。20人が参加した。

館内では専門ボランティアの解説を聞きながら、歴史巡りを楽しんでいた。

上越出身者 column（コラム）

元号が改まり令和元年となりました。新しい時代の始まりは連休ということもあって、上越地方の各漁港では鮮魚直売などのイベントが行われました。

私の地元、糸魚川市

は、迷わずに良いと思ったらすぐに買うこと。迷っていたらあっという間に売り切れてしまいますからね。

ただ、日常で魚を買う場合には、また違ったこつがあります。小顔の魚を選ぶ、魚体に張りのあ

5月4日に行われた筒石漁港での鮮魚直売の様子。今年も多くの人でにぎわいました

ブックページ（http

う。

旬の魚の情報なども発信されていてお勧めです。「上越漁協Facebook」で検索することでもアクセスできます。

また、腕の

良い魚屋さんと仲良く

：おさかなコーディ

師の息子、東京海洋
る魚と長年関わり、
大学の授業などで魚
えている。また、全
報を楽しく伝える手